

Prime Infrastructure -トラブルシューティング低いディスクスペース問題

目次

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[背景説明](#)

[トラブルシューティング](#)

[予防策](#)

概要

この資料に Cisco Prime Infrastructure およびトラブルシューティング手順のよく見られる低いディスクスペース 関連 問題を分析する方法を記述されています。

Cisco Prime Infrastructure は Cisco Prime Infrastructure サーバにログインするとき UI の警告/重要なポップアップ メッセージを表示する。これらのアラームのためのしきい値交差は Prime Infrastructure `optvol` および `localdiskvol` パーティションだけの使用方法に基づいて計算されます。

前提条件

要件

次の項目に関する知識があることが推奨されます。

- Cisco Prime Infrastructure ソフトウェア
- Linux OS CLI

使用するコンポーネント

このドキュメントは、特定のソフトウェアやハードウェアのバージョンに限定されるものではありません。

この文書に記載されている情報は現象が観察された特定のラボ 環境のデバイスから作成されました。ネットワークが稼働中の場合は、コマンドが及ぼす潜在的な影響を十分に理解しておく必要があります。

背景説明

Prime Infrastructure は 1つ以上のコントローラ、スイッチおよび関連するアクセス ポイントを設定し、監視することを可能にします。Prime Infrastructure は同じ 設定が、パフォーマンスの監

視、セキュリティ、フォールト マネジメント含まれ、コントローラで使用される会計 オプションは複数のコントローラおよび管理されたアクセス アクセス・ポイントのグラフィカル概観を水平にし、追加します。

Linux で、Prime Infrastructure は絶えず実行され、再度ブートするの後に動作することを再開するサービスとして動作します。

トラブルシューティング

ステップ 1. ネットワーク制御システム (NCS) クリーンアップ ユーティリティは Cisco Prime Infrastructure のディスクスペースを再利用するのに使用されている inbulit ユーティリティです。ユーティリティおよびコマンドレファレンスを使用する方法の [Cisco Prime Infrastructure 3.1 のためのコマンドレファレンスガイド](#)を参照して下さい。

呼び出します。NCS クリーンアップ ユーティリティがディレクトリが Cisco Prime Infrastructure サーバのディスクスペースを消費し、低いディスクスペースで動作させます significant ディスクスペースを再利用しない場合、調べて下さい。

アクセスが (次のステップを実行するために Cisco Prime Infrastructure の ade) シェルを定着させることを必要とする場合もあります。

注意： ルートアクセスは Linux OS CLI の適当なナレッジがある承認されたシステム アドミニストレータによって処理する必要があります。

1. 管理者ユーザによる Cisco Prime Infrastructure CLI のログイン。
2. Cisco Prime Infrastructure のルート (ade) シェルにナビゲートして下さい。
3. 次のコマンドを入力します。

df との /opt ディレクトリの 使用状況があるように確認- h /opt

次に、例を示します。ade# df -h /opt

```
Filesystem Size Used Avail Use% Mounted on
```

```
/dev/mapper/smosvg-optvol 120G 54G 61G 47% /opt
```

検索 DU が付いているディスクスペースの主要なチャンクを消費する /opt のディレクトリ- h --max-depth=6 /opt | グレップ [0-9]G | 並べ替え -k2

```
ade# du -h --max-depth=6 /opt | grep [0-9]G | sort -k2
```

```
54G /opt
```

```
11G /opt/CSColumos
```

```
3.4G /opt/CSColumos/da
```

```
3.3G /opt/CSColumos/da/cdb
```

```
3.6G /opt/CSColumos/staging
```

```
2.0G /opt/CSColumos/staging/apppdf
```

```
1.2G /opt/CSColumos/staging/pf
```

```
33G /opt/oracle
```

```
33G /opt/oracle/base
```

```
3.1G /opt/oracle/base/fast_recovery_area
```

```
3.1G /opt/oracle/base/fast_recovery_area/WCS
```

```
3.1G /opt/oracle/base/fast_recovery_area/WCS/onlinelog
```

```
25G /opt/oracle/base/oradata
```

```
25G /opt/oracle/base/oradata/WCS
```

```
22G /opt/oracle/base/oradata/WCS/datafile
```

```
3.1G /opt/oracle/base/oradata/WCS/onlinelog
```

```
4.3G /opt/oracle/base/product
4.3G /opt/oracle/base/product/11.2.0
4.3G /opt/oracle/base/product/11.2.0/dbhome_1
```

4. 上記の出力に基づいて、ディスクスペースが Oracle Database か他のディレクトリによって消費されるかどうか決定できます。

5. /opt ディレクトリ サイズを比較すれば /opt/oracle ディレクトリのサイズがもっとそして /opt ディレクトリの 60-70% なら、/opt/oracle サイズは物理的な アプライアンスの場合には VM により多くのディスクスペース (仮想 な アプライアンス) またはハード ドライブ アップグレードを追加することを考えます。

ステップ 3 /opt/oracle ディレクトリ サイズを疑いをもって増加することを観察し、それ以上の関心を必要とする場合、開き、これのための TAC をこれを Cisco TAC エンジニアとチェックして下さい。

予防策

低いディスクスペースは低いパフォーマンスからサーバクラッシュまで及ぶさまざまな方法で Cisco プライム記号 Infrastructure パフォーマンスに影響を及ぼす場合があります。

Cisco プライム記号 Infrastructure をアップグレードしている間不十分なディスクスペースまた更に失敗が理由で失敗アプリケーション バックアップのような他の問題に動作することができます。

簡単な予防策を奪取 することはライフを Cisco プライム記号 Infrastructure に責任があるシステム アドミニストレータのために容易保存し、サーバの低いディスクが原因のようであるかもしれない問題を避けます。

制御の下で順序で保存する Cisco プライム記号 Infrastructure ディスク 利用を続けることができる最良の方法のための [ディスクスペース問題を管理すること](#) 参照して下さい。